

みんなで創る未来の防災

防災共創 プラットフォーム

いざという時に困らない仕組みをつくる

「防災共創プラットフォーム」は、市民、企業、NPO、行政などが日頃から協力し、有事の際に速やかに連携できる関係づくりや、未来の防災を担う仕組み・製品を生み出すことを目指しています。その取り組みの推進拠点を、旧大名小学校に設置しました。



実施主体

福岡市、福岡地域戦略推進協議会 (FDC)、Pop-up Commons 準備委員会

※福岡地域戦略推進協議会 (FDC) とは

福岡の新しい将来像を描き、地域の国際競争力を強化するために、地域の成長戦略の策定から推進までを一貫して行う、産学官民一体のシンク&ドットタンクです。福岡都市圏を核として、九州、さらには隣接するアジア地域との連携を回り、事業性のあるプロジェクトを推進しています。

※Pop-up Commons とは

未来の防災を実現するために、トレーラーハウスなどを活用して移動可能な施設で構成された街のこと。普段は地域住民のコミュニティの場として活用され、災害時には被災地に出動して支援を行います。新しい技術を防災に活用する研究や実験場所の役割も担っています。

防災共創プラットフォーム事務局

旧大名小学校の福岡地域戦略推進協議会事務所、Pop-up Commons 実証実験施設内

☎ 070-4453-1076

✉ bosaiKP@fukuoka-dc.jpn.com



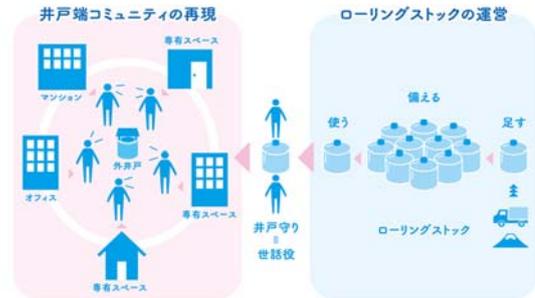
防災共創プラットフォーム 2017 年度活動報告

■防災チャレンジ（企業等による防災関連の取り組み）



“Pop-up Commons 準備委員会”

移動可能な家“トレーラーハウス”を、日頃は旧大名小学校のグラウンドで運用し、発災時は、支援を必要とする場所に出動して被災者や支援者の休憩室、宿泊場所として開放するなど現地のニーズに応じたさまざまな支援活動を行う取り組みです。



“プレミアムウォーター(株)”

ウォーターサーバーのボトルをビルや地域単位で共同で管理する仕組みがあれば、日頃の配達の手間を減らす(=コストダウン)と同時に、災害に備えた水の備蓄(=ローリングストック)もできるのではないかと、という仮説にもとづく取り組みです。

■ワークショップ



- 「防災共創ワークショップ」
- 2017年9月3日@舞鶴公園西広場
- 様々な立場の市民35名が参加
- “防災キャンプ”会場で体験やインタビューを行った後にグループ討議や個人作業を行い、未来の防災36アイデアが生まれました！



- 「防災共創スタンプラリー」
- 2017年9月3日@舞鶴公園西広場
- 子供たちや親子が多数参加
- 10の学びや体験をクリアした245名が、「たくましくらし宣言」として、災害に備える日々の工夫を発表！



- 「ロボットアイデアソン」
- 2018年1月12,13日@福岡銀行本店
- 県内21校,112名の学生が参加
- 防災を含む4つのテーマについて、ロボットを用いた未来の社会をデザイン。防災アイデアが最優秀賞を受賞！

■情報発信など

- 福岡市主催の防災イベントや地域の防災訓練などへの参加を通じた情報発信を行っています。新年度からは“ゆるやかなコミュニティづくり”なども行い、より積極的な情報発信を進めたいと考えています。



☎ 070-4453-1076

✉ bosaiKP@fukuoka-dc.jpn.con